パンフレット「伝えたい，静岡県，土木のチカラ。」を活用したストック効果の PR 戦略

静岡県 交通基盤部 政策監付　佐藤（さとう）　純一郎（じゅんいちろう）

1. はじめに

静岡県交通基盤部では，インフラのストック効果や必要性を広く PR するため，平成 28 年 2 月にパンフレット「伝えたい，静岡県，土木のチカラ。」（ストック効果の事例集）を作成・公表した。

これまでに約 2 万部を発行し，県民，国・市町の関係機関や企業等を対象として，出前講座や現場見学会，タウンミーティングなどさまざまな機会を通じてパンフレットを丁寧に説明し，インフラに対する理解促進を図るほか，企業誘致や移住定住を促進する取組みの資料としても活用している。

本稿では，パンフレットを活用したストック効果を PR する取組みについて，紹介する。

2. パンフレットの内容

安全・安心で魅力ある地域づくりに向けては，インフラの老朽化対策や防災・減災対策，交通ネットワークの充実等を今後も一層進める必要があり，インフラの重要性はますます増してきている。そのため，県民や企業等に向けて，インフラ本来の効果を情報発信することにより，効果的・効率的なインフラ整備を進めていくための共通認識を図る必要があった。

しかし，インフラの効果については，インフラ施設が完成したことの PR が中心であり，それらを使って日々の生活や企業活動を行う人たち，いわゆる生活者目線や企業目線での PR ができていなかった。

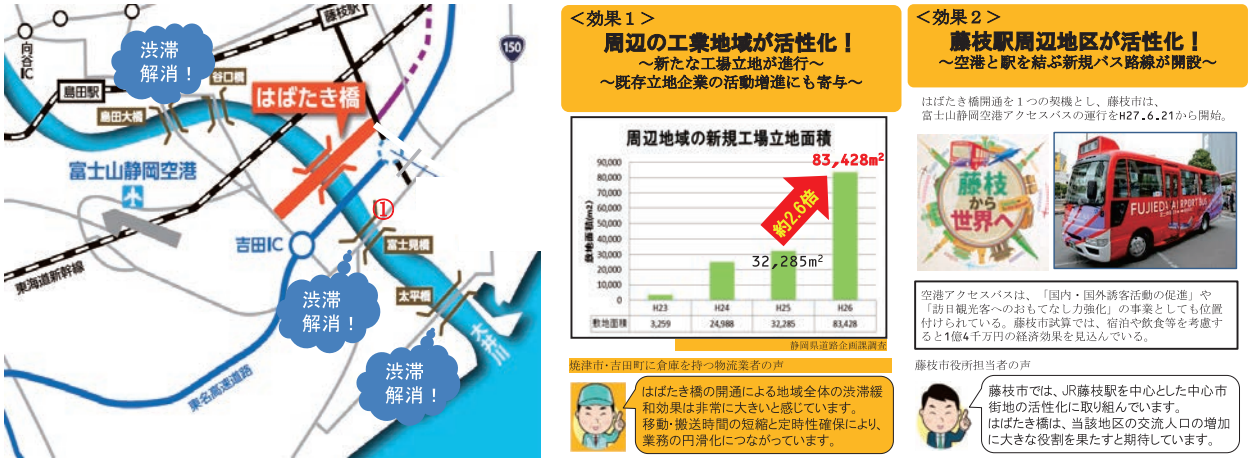
そこで，道路や河川，港湾，農地等のインフラ整備により，静岡県を元気にする「土木のチカラ。」を紹介するパンフレットを作成した（図－1）。主な事業のストック効果について，4 つの事例を紹介する。

図－1　パンフレットの表紙等

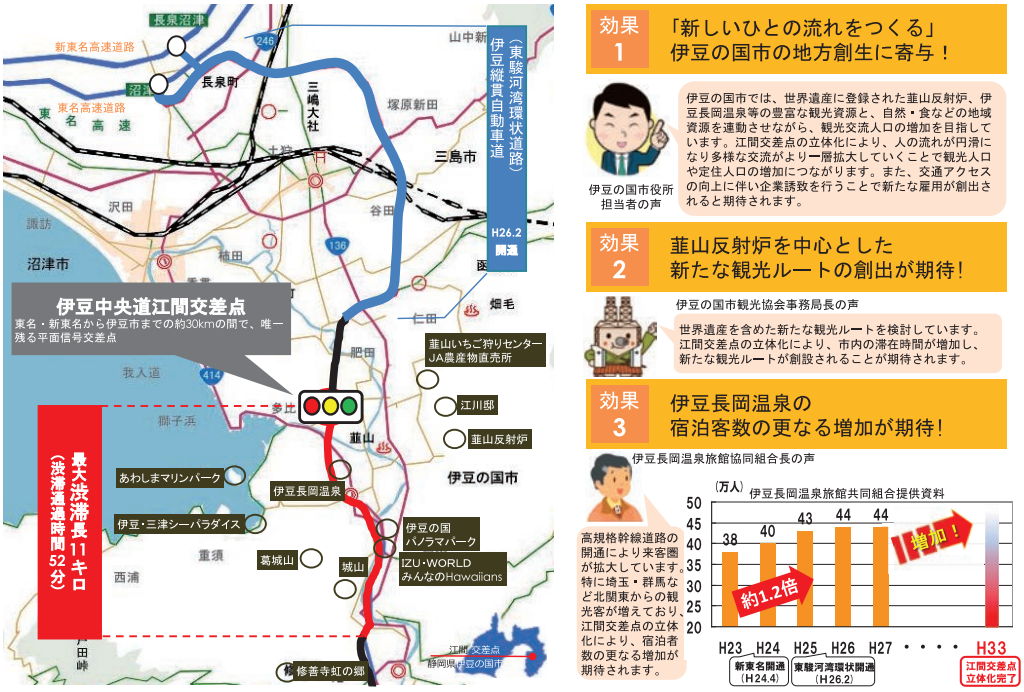
(1) 道路事業のストック効果

一級河川大井川に「はばたき橋」を新たに架橋したことにより，周辺道路の渋滞が大幅に減少するとともに，周辺地域での新たな工場立地の進行，空港と藤枝駅を結ぶバス路線の新規開設，島田市内の住宅店舗の新規立地が増加するなど，地域の活性化に大きく貢献した（図－2）。

東名，新東名から伊豆半島の中央に位置する伊豆市までの道のりで，唯一平面交差点が残り，渋滞が頻繁に発生しているのが国道136号の江間交差点である。周辺はイチゴ狩りの名所として知られ，平成27年7月に世界遺産に認定された韮山反射炉にも近い交通の要衝である。2020年東京オリンピックの会場となる伊豆ベロドロームへのアクセスでもあることから，江間交差点の立体化を進めていく予定である。完成すれば，大幅な渋滞の減少や，新たな観光ルートの創設，宿泊客数の増加などさまざまな効果が期待される（図－3）。



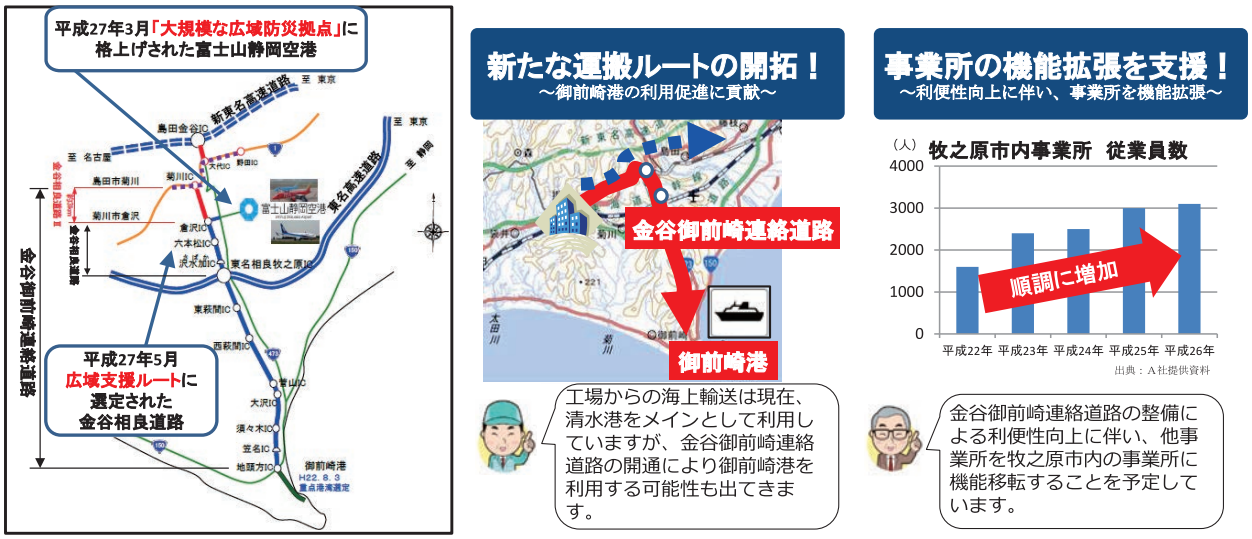
図－2　道路事業による地域活性化の効果①



図－3　道路事業による地域活性化の効果②

(2) 陸・海・空の交通ネットワークのストック効果

御前崎から新東名島田金谷 IC を結ぶ地域高規格道路「金谷御前崎連絡道路」のうち，御前崎から富士山静岡空港がすでに完了しており，現在，空港から国道 1 号を結ぶ金谷相良道路Ⅱを整備中である。完成すれば，新東名高速道路から富士山静岡空港，御前崎港までのアクセスが向上し，更なる物流コストの削減や，ヒト・モノ・カネ・情報のさらなる対流が生まれることを想定している（図－4）。



図－4 陸・海・空の交通ネットワーク形成による効果

(3) 河川事業のストック効果

世界文化遺産富士山の構成資産の一つである白糸の滝において，富士宮市と連携して，老朽化した土産物店の移設，河川の多自然護岸工事，滝を阻害する人工構造物の撤去，橋の移設などを行い，世界文化遺産にふさわしい自然に溶け込んだ滝周辺の整備を行った結果，来訪者が 1.3 倍に増加するとともに，滝周辺の水辺で楽しむ姿が多くみられるようになり，観光スポットとしての満足度が向上した（図－5）。

図－5 「白糸の滝」周辺整備による効果

(4) 急傾斜事業のストック効果

湖西市上田町では，幼稚園背後の急傾斜地対策として山を切り取るとともに，その上部にできた平地を津波避難場所として活用する。また，発生した土砂により沿岸部に命山を建設する。安全・安心な地域づくりのため，1つの対策で3つの効果を発揮することができる“一石三鳥”の事業を進めている（図－6）。

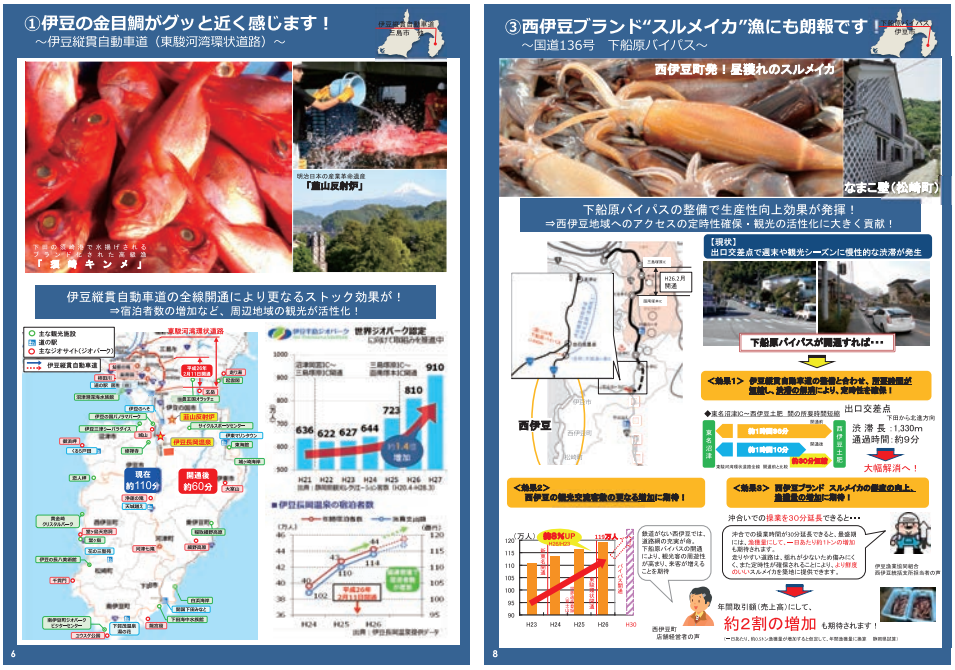
図－6　急傾斜事業による3つの効果

3. 工夫した点

パンフレットを作成するに当たっては，県民等にとってわかりやすい内容にするとともに，インフラに携わる人たちだけではなく，インフラに関心がない若者，県外の企業等にも情報発信を行っている。

(1) ビジュアル化したパンフレットの紙面

写真やグラフを多用するとともに，できる限りわかりやすい表現とし，県民が手に取って直感的に理解ができるよう工夫している（図－7）。

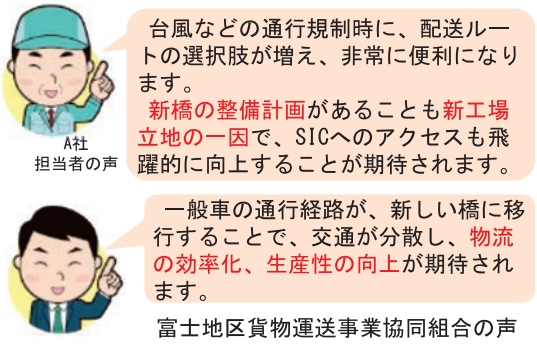


図－7　ビジュアル化した紙面

(2) 生活者目線の表現

「○○川が広くなって，○○地域の洪水に対する安全度が大幅に向上しました。これを受け，○○地区では区画整理による新たな宅地造成も進んでいます。企業や大型商業施設の立地も決まり，未来に向かって地域が活性化していきます。」など，インフラを活用する側の目線，地域の目線に立った表現でストック効果を示している。

ストック効果を示す素材については，地域活性化につながるようなデータ等を地元市町等から情報収集するとともに，ステークホルダーとなる事業箇所周辺の店舗や企業等に聞き取りを実施し，ストック効果として整理している（図－8）。



図－8　ストック効果「ステークホルダーの声」の例

(3) 若者世代や県外への情報発信

高校への出前講座や現場見学会など，さまざまな機会でパンフレットを配布し，ストック効果を丁寧に説明している。また，県内学生と県で運営する「Facebook 静岡未来」へパンフレットの内容を掲載するとともに，大学生を対象に土木体感ツアー（写真－1）を開催するなど，パンフレットの情報に加え，現場を体感することで興味を持ってもらうための PR を実施している。さらに，静岡市が主催する「しずおか建設まつり」にブースを出展し，子どもにもインフラに関する PR を行っている。

また，毎年開催している静岡県主催の東京や大阪に在住の県ゆかりの政財界の人たちが参加する「ふじのくに交流会」では，インフラのストック効果について，パンフレットやパネルを活用して PR を行っている（写真－2）。

写真－1　土木体感ツアーの様子（平成 28 年 12 月）

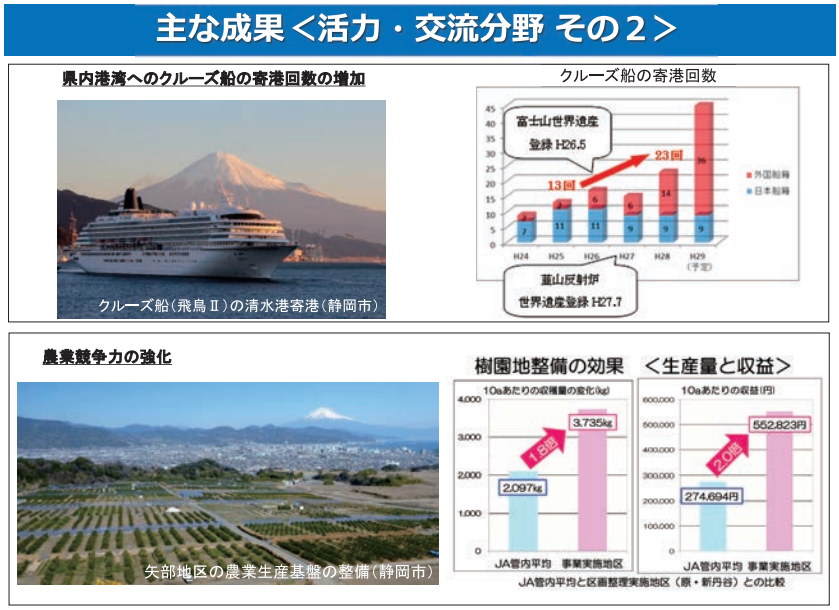
写真－2　「ふじのくに交流会（東京会場）」の説明状況

4. 取組みの効果

平成 28 年 2 月にパンフレットを公表して以降，戦略的な PR に取り組んだ結果，一定の効果があったと考えている。主な効果として，次の 3 つを示す。

(1) 「静岡県社会資本整備重点計画」の成果への活用

インフラの投資の方向性を示す静岡県社会資本整備重点計画（H25 ～ 29）の総括評価において，安全・安心，活力・交流，環境・景観の 3 つの重点分野について，計画期間内に県内各地で得られた成果（図－ 9）をよりわかりやすく説明し，高い評価をいただいた。



図－ 9　計画の主な成果（活力・交流）

(2) 新聞や雑誌への掲載

発行時の平成 28 年 2 月は，新聞に取り上げられるとともに，同年 11 月には，日経コンストラクション（日経 BP 社）の「土木の魅力の伝え方特集」において大きく掲載され，インフラの PR に関する取組みについて，高い評価を受けた。

(3) ストック効果に対する職員の意識向上

パンフレットを作成するに当たっては，県庁内関係部局の担当者を中心に，各事業のストック効果を検証・整理している。これまでに 3 回のバージョンアップを図ることにより，職員のストック効果に対する意識が向上したことがうかがわれる。

5. おわりに

インフラのストック効果について，県民や企業等の理解を得ることは，インフラに携わるわれわれにとって重要かつ喫緊の課題であり，今後も引き続き，わかりやすく丁寧に伝えていく必要がある。

ストック効果の表現については，国等の最新の知見等を柔軟に取り入れ，生活者により伝わる内容に改善し，パンフレットの内容を充実させていきたい。

さらに今後は，パンフレットに加え，動画を活用することにより現場の様子をよりダイナミックに伝えるなど，効果的な PR に努めていきたい。